

経営比較分析表（令和2年度決算）

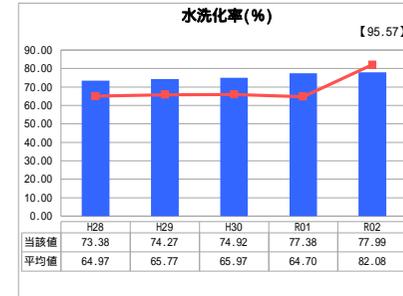
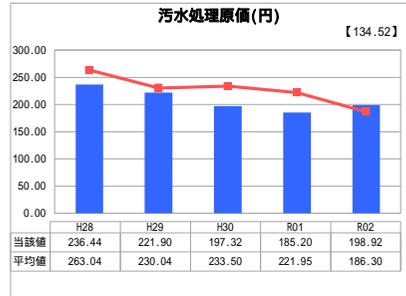
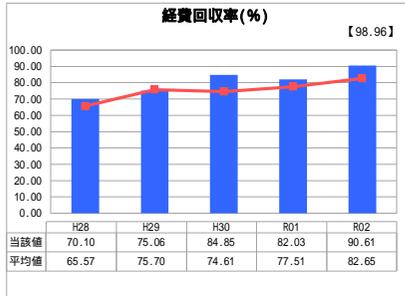
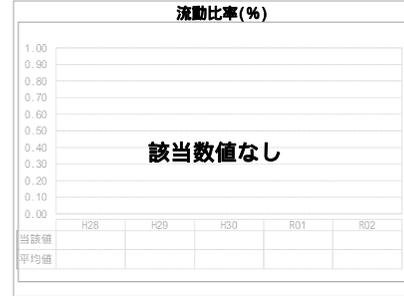
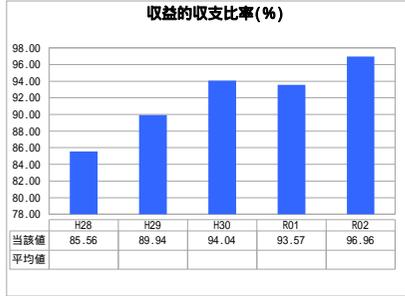
佐賀県 多久市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	30.77	96.03	3,960

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,721	96.96	193.08
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,742	2.08	2,760.58

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支率については、昨年度比率に対し上昇している状況であるが、100%を目指し今後も更なる改善に努めたい。

企業債残高対事業規模比率については、前年度より微増となっている状態であるが、類似団体平均よりも低い比率を示している。

経費回収率については、令和2年4月より使用料改定を行ったこと、使用料の収納事務を改善し、徴収率を上げたことにより前年度より増加している。今後も経営の健全化を図る。

汚水処理原価については、前年度より増となっている状態である。増の要因としては、突発的な機器修繕を行ったことによると推測される。今後も汚水処理に係るコストを抑える必要がある。

施設利用率については、接続戸数が増加したことにより、汚水処理量が増となり前年度比で増加している状態である。

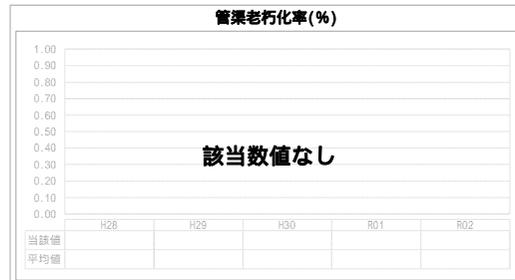
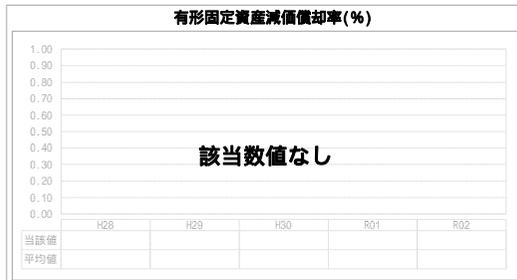
水洗化率については、現在も下水道整備区域の拡大を行いながら水洗化の促進を行っているが、類似団体平均値より低い状態であるため、更なる水洗化率の向上に取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成17年度の供用開始であるため、法定耐用年数を超える函渠は該当無しとなっている。

管路の点検については、必要に応じて実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理に係る費用を使用料以外の一般会計繰入金等に依存している状況である。

令和元年度より事務事業の効率化を図り、令和2年4月より使用料単価の改定を行いながら、健全な経営を目指している。

今後想定される老朽化対策については、長寿命化計画を策定し、計画的に実施していく。